
罪の意識～自殺～

L . L

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

罪の意識〜自殺〜

【Nコード】

N7895A

【作者名】

L・L

【あらすじ】

俺のじいちゃん毎日、夕方になると散歩に出掛ける。ある日じいちゃんが自殺した。そして遺書がでてきて…。私の体験談です。

（前書き）

体験談です。決して上手ではありませんが読んでいただければ光栄です。

俺のじいちゃんは病気でちょっと前まで入院してた。

そのせいか、俺の家族はじいちゃんをやっかいもの扱いしていた気がする。

そして、退院してからは健康のために夕方あたりになると散歩に出掛けるようになった。

俺の家の周りは土手や川や田んぼとかの自然が多くて散歩をするにはもってこいの場所だ。

土手から見る夕日は最高だと俺は思う。

そして、じいちゃんが散歩を始めてから約1ヶ月がたった。

その日、じいちゃんは夕方散歩に行って夜中になっても戻って来なかった。

次の日もじいちゃんは戻って来なかったので、俺達家族は警察や近所の人達と一緒にじいちゃんを捜すことになった。

だけど結局、その日じいちゃんは見つからなかった。

次の日。

じいちゃんは死体で発見された。

首吊り自殺だった。

じいちゃんの顔を見たら、じいちゃんは鬼のような顔をしていた。そんなに苦しいものなのかと思った。

鬼のような顔になる程の苦しみよりも、生きていく苦しみの方が大きかったのかと思った。

ただじいちゃんが弱かっただけだと思った。

その時は涙がでなかった。

葬式の日。

俺達家族はじいちゃんの遺書をみた。

遺書には、

「家族の迷惑になりたくないので死にます。」

ただそれだけ書かれていた。

涙が止まらなかった。

じいちゃんは自分で自分を殺したんじゃない。

じいちゃんを殺したのは俺達家族だ。

病気のじいちゃんをやっかいもの扱いして、氣遣ってもやんない。

拳げ句の果てに日常のストレスをじいちゃんにぶつけた。

血の繋がった家族にそんな事されたらどう思う！

死にたくもなるだろう？

自分の妻に。

娘に。

孫に。

愛する人たちみんなに追い込まれたんだ。

どれだけ辛かったんだろう。

やっぱり死ぬよりも辛かったんだろうな。

じいちゃんにはまだ死んで欲しくなかった。就職して初めての給料

で温泉に連れて行ってやりたかった。

結婚式にも来て欲しかった。

できれば自分の子供の顔も見せてやりたかった…。

だけど今更そんな事考えたって遅い。

じいちゃんは僕達が殺してしまった。

もう戻ってこない。

俺達が…殺した。

俺達はきつと一生忘れない。

忘れてはいけない。

大切な家族を殺してしまった事を。

俺達は、死ぬまで罪の意識を持つだろう。

一人の人を。大切な家族を。

じいちゃんを殺した事を…。

（後書き）

この小説は涙を流しながら書きました。自殺する側も辛いと思いますが、残された側も同じく辛いです。この小説で読者の皆様が自殺についてなにか感じてくれたらと思います。感想や意見がありましたら是非おねがいしますm（| |）m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7895a/>

罪の意識～自殺～

2010年10月14日15時07分発行